

ご挨拶

第12回 日本健康運動看護学会学術集会
大会長 安部 聡子

2019年、日本健康運動看護学会の理事長 鶴田来美先生との出会いがあり、学術集会開催についてご相談を受けたのは、COVID-19の感染拡大が世の中で話題にもならなかった時のことでした。関東での学術集会で、たくさんの看護師が集結することを心待ちにしておりました。しかし、日本をはじめ世界の状況は大きく変わり、看護職は、白衣の天使から医療の最前線で戦う白衣の戦士になっていったような気がします。その中で、人々の生活も大きく変化しました。それまで、スポーツや運動をすることは健康増進に極めて重要だと言われていました。子供も大人も運動を習慣化することを強く勧めていた予防医学の概念は、自粛という生活の中に封印されてしまったと言えるでしょう。長引く自粛期間の影響は、「コロナ太り」という楽観的な言葉とは裏腹に、子供たちの筋力低下、高齢者の運動機能の低下に加え、認知症の進行、精神疾患や慢性疾患の悪化に繋がっていることは、既にスポーツ団体・協会等で報告され始めています。

第12回日本健康運動看護学会学術集会の大会テーマは、「今こそスポーツ支援にナースの力を」と致しました。これは、COVID-19感染拡大の2次被害とも言える「コロナ自粛による健康被害」をスポーツ支援に関わるナースたちがキーマンとなり打ち破ってくれるのではないかと思います。感染拡大が沈静化しても、以前のように自由な形での活動は困難であることが予想されます。感染予防から運動指導、救護方法など、スポーツ活動の在り方は、医療的な知識を持つスポーツナースのもとで大きく変化を遂げる必要があります。このことは、世に健康スポーツナースの重要性を認知させるチャンスでもあります。

本大会は残念ながら、皆様の安全を考えてWeb開催と致しました。しかしながら、特別講演、教育講演、実践報告、国際競技大会報告に至るまで、多くの実践者のご講演をいただけるプログラム構成となっています。

開催に至るまで、事務局の内山慶太郎様、小林磨巳永様をはじめ、実行委員会の皆さまには、多大なるご尽力を賜り、この場を借りて感謝の意をお伝え致します。そして、本学術集会が、ご参加いただきます方々の活動の糧となりますように実行委員一同、力を尽くしたいと思います。